



さいたま市立大宮南中学校

わかとり

学校教育目標

輝く個性 夢きらり

学校だより 12月号

令和7年11月28日(金)発行
〒330-0834

さいたま市大宮区天沼町2-362

TEL 641-1142 FAX 641-5356

負けること・失敗することから学ぶ

校長 亀井 隆 司

今年のカレンダーも残すところあと1枚となります。早いもので来週からは師走です。「師走」の由来は12月になるとお坊さんがお経をあげるのに忙しく走り回るから…などの説があるようです。教職員もどことなく気ぜわしい時期となりますが、2学期の終わり、また令和7年の終わりというこの節目の締めくくりをしっかりと行ってまいります。

先日、観光で栃木県足利市を訪問しました。足利市はさほど大きな町ではありませんが、樹齢600年といわれる大銀杏が黄金色に色づくことで有名な鏝阿寺(ばんなじ)や「日本最古の学校」である足利学校が有名な地です。歴史的な建造物が並び、落ち着いた雰囲気がある足利へは毎年のようにこの時期に訪問しています。

「日本最古の学校」である足利学校は、創建された時代は諸説あるため明確ではありませんが、日本の教育の原点がそこにあり、興味深い展示物などを見ることができます。孔子の教えである「中庸(ちゅうよう)=何事もほどほどが良い」を表す「宥座之器(ゆうざのき)」もその一つです。また、以前展示されていたもののの中に、足利学校とは直接的なつながりはありませんが、足利市出身である詩人相田みつをさんの詩がありました。ここで紹介します。

受身・負ける練習 相田 みつを

柔道の基本は受身

受身とは投げ飛ばされる練習

人の前で叩きつけられる練習

人の前でうつぶ練習

人の前で負ける練習です。

つまり、人の前で失敗をしたり

恥をさらす練習です。

自分のカッコの悪さを多くの人の前で

ぶざまにさらけ出す練習

それが受身です。

柔道の基本では カッコよく勝つことを教えない

素直に「うぶ」ことを教える

いさぎよく負けることを教える

長い人生には カッコよく勝つことよりも

ぶざまに負けたら

だらしなく恥をさらすことのほうが

はるかに多いからです。

だから柔道では 始めに負け方を教える

しかも、本腰を入れて 負けることを教える

(中略)

若者よ 頭と体のやわらかいうちに

受身をうんと習っておけ

受身さえ身につけておけば 何回失敗しても

すぐ立ち直ることができるから……

そして 負け方や受身の

ほんとうに身についた人間が

世の中の悲しみや苦しみに耐えて

ひと(他人)の胸の痛みを

心の底から理解できる

やさしい暖かい人間になれるんです。

学校では日々の生活や学習活動、行事などを通して、たくさんの挑戦や達成を繰り返し、勝敗を競うこともあります。しかし、その全てにおいて勝つことやうまくいくことばかりではありません。言うまでもなく、うまくできた、できるようになった、勝つことができたという経験は重要です。ですが、この詩の中ではうまくいかなかったときや負けてしまった時にどう振る舞うか、それをどのように受け止めるか、そしてどのように次に生かそうとするかが大切なのだと読み取ることができます。

大人は人生経験が豊富なだけに、子どもたちが失敗する前に手を貸しすぎてしまうことがあります。場合によっては失敗したりうまくいかなかったりしたときに、その原因を他の所に探そうとしてしまうこともあります。生徒たちにはたくさんのことに挑戦して、成功や失敗を繰り返し、そのすべてが自分自身の糧となるようにしてもらいたいと考えています。またその過程を様々な角度から支えていける大宮南中学校でありたいと思っています。